

9.【婦防活動】千葉県少年婦人防火委員会が婦人防火研修会を開催ほか〔静岡、北見〕

平成21年度婦人防火研修会を開催

千葉県婦人防火クラブ連絡協議会
会長 竹内久子

去る2月2日、未明にかけての降雪による冬景色のなか、千葉県消防学校講堂に県下各地から防火クラブ員をはじめ消防防災関係者多数のご参集をいただき、「平成21年度婦人防火研修会」が開催されました。

恒例となりました千葉県少年婦人防火委員会（石橋毅会長）と（財）日本防火協会（片山虎之助会長）及び、私ども千葉県婦人防火クラブ連絡協議会の三者共催による研修会もお陰さまで、昭和61年から毎年開催し、今年は24回目となりました。

主催者を代表し、石橋会長と筆者の挨拶に続き、日頃から大変ご尽力いただいている片山日本防火協会長からの祝電が披露され研修が始まりました。



主催者代表挨拶（竹内会長）

午前中は県役員の9名から各クラブの活動発表があり、各地域の事業を背景に特色のあるいろいろな活動が披露されました。

引き続き、発表クラブの全員の紹介があり、活発な質疑応答や情報交換が行われました。

昼食後、参加者は休憩時間には研修会場に展示された住宅用火災警報器や防災品等の見学をしたり、思い思いに親睦を深めたりしておりました。

今回の研修会では、会員相互の交流を重視し、参加者全員にネームプレートを付けていただきましたので、これまで以上にクラブ員同志、交流を深めることができたのではないかと思います。



幸田氏による「婦人防火クラブの役割」講義

午後からは、日本自治体危機管理学会副会長（前総務省消防庁国民保護・防災部長）の幸田雅治先生を講師としてお招きし、「婦人防火クラブの役割」と題して住宅用火災警報器関係などの最新情報を取り入れて講義をして頂きました。

その中で新聞記事等の情報をふんだんに取り入れ、ご説明して下さったのが印象的でした。

幸田先生は、総務省消防庁でのご経験を踏まえながら、分かりやすく、ユーモアを交えて、終始聴衆の笑いの中で楽しく、かつ、有意義なお話をして頂きました。

先生はご講演の中で「婦人防火クラブ設立の経緯」をひも解かれたうえ、「婦人防火クラブへ期待するもの」として、①住宅用火災警報器の設置、②家具の転倒防止対策、③地域での連携強化、の3点についてパワーポイントを駆使しながら詳しく語られました。

さらに、婦人防火クラブに対する期待についてお話がありました。

その要旨は、①「連携の重要性」として、行政やNPOなどと連携することにより、防災についての意思疎通を図る場として、全国にクラブ員178万人を擁するボランティア組織としての婦人防火クラブの存在意義は大きい。②「コミュ

ニティの中での役割」として、防災には日頃、地域での教育が必要であり、また、地域福祉の向上には防災活動は欠かせない。③「地域防災リーダー」の普及の必要性として、いざというときにリーダーは欠かせないが、地域社会ではいうに及ばず、家庭においてもリーダーの役割は重要である。④

「取組みに当たっての工夫」の必要性について触れられ、児童生徒には楽しみながら学ぶよう、また、防災については、「自分の身は自分で守ること」を真剣に考えて貰う工夫が必要である。

最後に、現場の情報は現場にいる人にしかわからないので、婦人防火クラブの皆さんは現場の声を発信して欲しいと力説され、受講者からの万雷の拍手をもって研修会を無事終わりました。



婦人防火クラブの参加者



住警器パネルを展示しPR

このたびの研修を終えた参加者からは、口々に「楽しく、しかも、ためになることが沢山あった。」「防災リーダーとしての使命感を改めて認識した。」「幸田先生のお話は今後の活動に生かしたい。」「日頃のコミュニケーションの大切さについて勉強になりました。」「時間が経つのが早く感じた。」など多くの賞賛の声が聞かれたことは主催団体として嬉しい限りでした。

おわりに、研修会開催にあたりご協力ご支援を頂きました日本防火協会、千葉県消防学校、県消防協会に厚く御礼を申し上げます。また、お足元の悪いなかご参加くださいました

皆様に心より感謝致します。

[▲ このページの上に戻る](#)

会報誌「ひのみ」編集会議を開催しました！

静岡県女性防火クラブ連絡協議会

静岡県女性防火クラブ連絡協議会は、平成22年1月26日（火）に、静岡県庁において、会報誌「ひのみ」編集会議を開催しました。

会報誌「ひのみ」は、女性防火クラブの1年間の活動を振り返り、まとめることで、県民の防火意識の高揚と幼年・少年消防クラブや女性防火クラブ等の育成を図ることを目的として、毎年発行しているものです。

1年間を振り返ってみると、主なもので6月には浜松市にて宿泊を伴う研修会、8月にやはり浜松市の駅北口において防災フェア2009への出展、9月には消防学校において体験入校、11月には静岡県防火のつどい、と活発な活動を行い、住宅における火災予防を訴え続けました。

編集会議でも役員からは活発な意見が上がり、議論が白熱しました。文字を大きくし、出来る限り写真を多く用いるなどして、見やすい誌面作りを特に心がけています。

今後、編集会議での決定した方針を基に作成・製本し、3月には各消防本部等に3,000部以上を配布します。



議論が白熱した編集会議



会報誌「ひのみ」

[▲ このページの上に戻る](#)

住警器普及のぼり旗を揚げ、交流ミニバレーボール大会を開催

北海道 北見地区消防組合消防本部

北見地区消防組合消防本部では、2月21日（日）第22回北見地区幼年少年婦人防火委員会交流ミニバレーボール大会を開催しました。

当委員会の幼年消防クラブ、婦人防火クラブ、女性消防団の18チームが出場し、スポーツを通じて各家庭での火の用心を誓い交流を深めました。



幼年少年婦人防火委員会18チームが出場



住警器普及のぼり旗を揚げて

[▲ このページの上に戻る](#)

目次

[1.平成21年（1月～9月）における火災の概要 – 総務省消防庁](#)

[2.住宅用火災警報器の普及状況の推計結果 – 総務省消防庁](#)